

滝山城(国史跡, 続百名城) (八王子市丹木町) (滝山自然公園)

滝山城（たきやまじょう）は、現在の東京都八王子市丹木町にあった戦国時代の日本の城である。

歴史・沿革

1521 年（永正 18 年）山内上杉氏の重臣で、武蔵国の守護代大石定重が築城し、高月城から移ったという。1546 年（天文 15 年）、北条氏康が河越の夜戦(河越城の戦い)で扇谷上杉氏を滅ぼし、山内上杉氏の勢力を武蔵から排除すると、大石定久は北条氏康の三男・氏照を娘婿に迎え、事実上、大石氏は北条氏の軍門に下った。1558 年（永禄元年）頃、北条氏照は城の大改修を実施した。

1569 年（永禄 12 年）、小田原攻撃に向かう武田信玄軍 2 万が滝山城の北側の拝島に陣を敷き、別働隊の小山田信茂隊 1 千が小仏峠から進入、これに対し北条方は廿里で迎撃したが一蹴され（廿里古戦場）、滝山城三の丸まで攻め込まれ落城寸前にまで追い込まれたが、2 千の寡兵で凌いだ。しかしこの戦いは、滝山城の防御体制が不十分であることを痛感させ、八王子城を築城し移転するきっかけとなったといわれている。

なお、近年において齋藤慎一が 1561 年（永禄 4 年）春に上杉謙信が小田原城を攻めた際に滝山城下を經由した形跡があるのに合戦が起きていないこと、同年 7 月に北条氏康が三田氏を攻めた際に滝山城よりも遠い由井城（浄福寺城とみられる）に本営を置いていることなど、滝山城が存在していれば起こり得ない事例を挙げて、同年当時滝山城はまだ存在していないとした。齋藤は、小田原城から由井の北条氏照への棟別銭免除の指示を示した朱印状が出された 1563 年（永禄 6 年）4 月より北条氏照が滝山城への年貢納入を命じた発給文書が出された 1567 年（永禄 10 年）9 月までの 4 年余りの時期に上杉謙信の南下に対抗するために滝山城が築城されたとする説を提示している。

構造

多摩川と秋川の合流点にある加住丘陵の複雑な地形を巧みに利用した天然の要害で、関東随一の規模を誇ったという。

現在、遺構として本丸・中の丸・千畳敷跡空堀などが残っており、国の史跡に指定されている（1951 年（昭和 26 年）6 月 9 日指定）。大部分が東京都立公園「滝山自然公園」となり桜の名所である。

Wikipedia による

（1）滝山城の歴史

室町時代の関東は、鎌倉府の長官（鎌倉公方）と、その補佐をしていた関東管領が統治していたが、早くから対立抗争が激化しており、いち早く戦国の様相を呈していた。鎌倉公方は、堀越公方と古河公方とに分裂、関東管領職を世襲していた上杉氏も、山内上杉氏・扇谷上杉氏に分かれ、対立していた。更に、在地の武士団・国人領主たちも「国一揆」を結ぶなどして、それぞれの立場で戦いを展開しており、激しい争いが長く続いた。

滝山城は、1521 年（永正 18 年）に、多摩地方の国人領主・大石定重により築かれた山城である。

大石氏は、戦国時代に多摩地域を中心に活躍していた武将で、出自は信濃国佐久郡大石郷とされ、木曾義仲の後裔とも称した。実在が確かめられるのは、大石信重以降の憲重・憲儀・房重・顕重・定重・定久の 7 代である。

大石信重は、1356（延文元）年に武蔵国入間・多摩両群に 13 郷を得て多摩に移住、二宮（現・あきる野市）の館を根拠とした。1384（至徳元）年には浄福寺城（八王子下恩方町）を築いた。関東管領山内上杉氏の有力家臣として「武蔵国目代職」を勤めた。

その後、大石顕重は高月城（八王子市高月町）築き本拠をここに移した〔1458（長禄 2）年〕。

「武蔵国守護代」を勤め武蔵 20 余郡を掌握していた大石定重は、1521（永正 18）年、滝山城（現・八王子市丹木町）を築城し本拠を移転した。

この頃、伊豆・相模に本拠を置いた戦国大名北条氏は、次第に勢力を関東全域に拡大してきた。古河公方、扇谷・山内の両上杉氏などとの戦闘が繰り返されてきた。

1546（天文 15）年 4 月の河越城をめぐる戦いで、北条氏は山内憲政・扇谷朝定を撃退した（河越夜戦）。この戦いで、扇谷上杉氏は滅亡し、山内上杉氏は上野平井（藤岡市）に退いた。主家山内上杉家の没落に、大石氏は北条氏に屈服していった。大石定久は北条氏照を養子に迎え、定久は戸倉城（現・あきる野市）に退いた。1559（永禄 2）年 北条氏照（19 歳）は滝山城に入った。その支配は、八王子を中心に北は五日市・青梅・飯能・所沢、南は相模原・大和、そして横浜の一部を含む広大な地域であった。

1569（永禄 12）年、小田原城攻撃に向かう武田信玄の軍勢が、小仏峠から侵入して、滝山城を攻めた。高尾山麓の廿里（とどり）（八王子市廿里古戦場）で敗退、滝山城三の丸まで陥落し、落城寸前まで追い込まれたが、かろうじて攻略は免れた。滝山城の防御体制の不十分さを痛感した北条氏照は、より堅固な山城を目指し、八王子城を築いていく。1587（天正 15）年 3 月頃 北条氏照は八王子城に入り、滝山城は廃城となる。

（2）史跡 滝山城

東京都八王子市丹木町にあった戦国時代の山城である。城は多摩川と秋川の合流点の加住丘陵にある。この丘陵は北西から南東に長く、多摩川に面する部分は 40m ほどの崖であり、この方面からの攻撃は不可能である。加住丘陵の複雑な谷津地形を巧みに利用した天然の要害で、随所に空堀が掘られ、大小 30 近い曲輪が機能的に配置されている。

曲輪；防御陣地・建造物を建てる敷地・兵の駐屯施設。「郭」とも書く。近世では「丸」ともいう。遺構は、本丸跡や中の丸跡などの土塁・堀（千畳敷跡空堀など）・井戸などである。

1951 年に、国の史跡に指定され、現在は東京都立公園「滝山自然公園」として整備されている。八王子がわかる事典による



大手口



中の丸

